

## 「故郷」を作詞した高野辰之

～ 12日(水)校長講話から ～

先週の火曜日、1年生と一緒に稲荷山公園まで遠足に行ってきました。すばらしい秋空の下で、思う存分遠足を楽しんできました。遠くに姨捨山や田毎の月で有名な棚田を見ながら、おいしいお弁当をいただきました。



学年主任の先生が、帰るための集合の合図の笛を吹いたのは、12時少し前でした。整列し始めると防災無線からある曲が聞こえてきました。1年生で覚えている人いるかな？ 「兎追ひしかの山…」

そう、音楽会で歌う『故郷』（ふるさと）です。

**故郷** 作詞：高野 辰之 作曲：岡野 貞一

- 1 兎追ひし かの山 小鮒(こぶな)釣りし かの川  
夢は今も めぐりて 忘れがたき 故郷(ふるさと)
- 2 如何(いか)にいます 父母 恙(つつが)なしや 友がき  
雨に風に つけても 思ひ出(い)づる 故郷
- 3 志(こころざし)を はたして いつの日にか 帰らん  
山は青き 故郷 水は清き 故郷



旧豊田村：高野辰之生誕の地

今日は『故郷』の歌を作詞した高野辰之さんのお話をします。

高野辰之さんは、長野県下水内郡豊田村、現在の中野市豊田の生まれです。辰之さんは、卒業後すぐ、自分が卒業した永田小学校の先生になりました。



高野辰之記念館

しかし、23歳のとき、文学の勉強をもっとしたいと東京に出ていきます。遠く故郷を離れた東京で、「故郷」を思い浮かべ書いた詩に曲がついて、今から100年ほど前に小学生用の歌として発表されました。辰之さん28歳のころです。

その後、大学の先生になり、49

歳とき、現在の東京大学で文学博士の学位を授与されました。文学の勉強が文学博士として認められたことで、3番に歌われているように、志を果たして故郷に帰ります。この知らせを聞いた村の人たちは、4km離れた替佐(か

### 替佐駅ホーム



えさ) 駅で高野辰之さんを出迎えたそうです。

替佐駅では、現在列車が着くたびに、高野辰之さんの作詞した曲が流れます。

私がこの写真を撮った連休中には、9時9分発長野行きの列車が到着すると、「秋の夕日に照る山もみじ…」と『もみじ』の曲が流れていました。

春には「春の小川はさらさらゆくよ…」と『春の小川』の曲が流れるのか、「春が来た春が来たどこに来た…」なのか、『菜の花畠に入日薄れ…』と歌い始める『朧月夜』なのか、全部、高野辰之さんの作詞です。

高野辰之さんは、故郷の長野県下水内郡豊田村の情景を思い出しながら、この歌詞をつくりました。兎を追った「かの山」は自宅の裏手にあった「大持山」で、小鮒を釣った「かの川」は村内を流れる「斑尾川」だったといわれています。でも『故郷』の歌には、大持山も斑尾川の名前も出てきません。そこで、故郷豊田村の情景を思い浮かべ作った『故郷』の歌は、日本人、一人ひとりが自分の「故郷」を思い浮かべる歌となって親しまれています。

音楽会で歌う『故郷』の歌、高野辰之さんの気持ちになって、気持ちを込めて歌ってください。

音楽会の練習に熱がこもってきましたね。学年学級の合唱や合奏も、運動会とは違う、皆さんの頑張りや成長した姿を見ることを今から楽しみにしています。**笑顔いっぱい音楽会**を期待しています。



高野辰之生家

今日は音楽会を前に『故郷』を作詞した高野辰之さんのお話をしました。

### 屋代青少年育成会様より全校児童・職員に鉛筆をいただきました!

今年も『**えがおであいさつ 屋代青少年育成会**』と書かれた鉛筆をいただきました。4年生以上の児童は「あいさつ運動標語」を考え、応募をします。屋代の町に明るいあいさつが響くよう、地域の方々に「**あかるく**」「**いつでも**」「**さきに**」「**つづけて**」あいさつをしましょう。



ありがとう  
ございます